

四国における労組生産性活動について
～四国地方労働組合生産性会議の活動紹介～

四国地方労働組合生産性会議 議長 鎌戸 平治

1959年4月全労生の前身である全国労組生産性企画実践委員会が設立された。同年6月には、四国においても四国地方労働組合生産性企画実践委員会が設立され、1968年に四国地方労働組合生産性会議（四労生）と改称、以後、労働組合の立場から生産性運動に取り組む中核機関として、重要な役割を担ってきている。企画実践委員会設立以降、50年を経ており、その歴史の重みを改めて感じるとともに、今日まで四国における生産性運動の発展にご尽力された諸先輩方、関係者の方々に心より敬意を表する次第である。

昨今のわが国は、グローバル化による競争の激化、少子・高齢化の進展、行き過ぎた規制緩和や市場中心主義等による格差拡大や歪みの顕在化、環境問題など、根本的な対応を要する喫緊の課題を多く抱えている。また、昨年秋以降、急激な景気の落ち込みに直面したわが国経済は、最近になって生産活動が下げ止まるなど一部に持ち直しの兆しは見られるものの、雇用の悪化が続くなど、決して楽観できない状況にある。

様々な問題や課題を抱える厳しい経済・社会情勢のなか、産業・企業の底力を高め、労働者が安心して生活できる活力ある経済社会を実現していくためには、労使双方が相互信頼に基づいた健全な労使関係を築き、原点である「生産性三原則」に立ち返って真の生産性運動を推進していくことが、これまで以上に強く求められている。

四労生では、こうした認識のもと、今年度は（1）生産性三原則の再認識と労使パートナーシップの再構築（2）労働組合を巡る今日的課題への対応（3）労働組合員の知識・能力・資質の向上を基本方針としてフォーラムや研究会活動、四国地域外の労働組合を訪問し情報交換と研鑽を図る労組実践研究などの実施を計画しており、四国の労働組合の組織・活動の充実に繋がる支援を積極的に行っていく所存である。